

### 【形態・生態】

前翅長 15mm 前後。翅表は♂は広く濃紫色、♀は濃藍色で周辺の黒褐 色部の幅が広い。高温期に発生する♀では濃藍色斑が消失する個体も見 られる。裏面は白色。ほとんど斑紋がなく、後翅基部から内縁にかけて 青緑色を帯びる。特異な斑紋と触角が非常に長いこと、分布域が異なる ことから国内の同属他種からは容易に区別できる。

#### 【分布の概要】

小笠原諸島

#### 【小笠原諸島における生息環境】

主に山地の樹林に生息する。

#### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

以前は普通に見られたようであり、集落周辺などでも記録されている。 1980年代後半より激減し、すでに父島列島では絶滅したと判断される。

その原因としてグリーンアノールによる捕食の影響や、アカギなどによる食樹の被圧などが指摘されている。現在、国、 関係地方公共団体、専門家、地域住民などの連携により外来種対策、環境改善、監視活動などの保全事業が関係法令に基 づき行われている。

【関連文献】 (執筆者:須田真一) 高桑正敏・須田真一, 2004; 白水隆, 2006.

## ウスイロコノマチョウ

Melanitis leda ismene

チョウ目(鱗翅目) シジミチョウ科

小笠原諸島 📶

環境省



前翅長 38mm 前後。クロコノマチョウに酷似するが、前翅表黒斑中の 第 3 室の白斑は中央付近にあること、黒斑に沿って表れる燈色斑は翅端 外縁側に広がらないことで区別される。翅裏の斑紋は変化に富む。小笠 原諸島の個体は全般に小型であり、南西諸島とは別系統の個体群の可能 性もあるが未検討。

#### 【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島。本土でもしばしば記録され、一時的な発生を 伴う場合もある。

## 【小笠原諸島における生息環境】

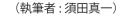
主に集落や農耕地周辺に生息する。

#### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島では普通に見られたが、1980年代後半ごろより激減し、一 時期ほぼ見られなくなった。グリーンアノールによる捕食の影響も知られるが、激減の原因は不明である。最近再び見ら れるようになった個体群は、安定的に生息する硫黄島などから飛来した可能性もある。

## 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 白水隆, 2006.



# オガサワラセセリ

Parnara ogasawarensis

チョウ目 (鱗翅目) タテハチョウ科

小笠原諸島



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館



#### 【形態・牛態】

前翅長 15mm 前後。翅表は黒褐色、翅裏は赤味を帯びた褐色。前後翅 には小白斑がある。国内の近似種とは、小白斑の形や配置が特異である こと、分布域が異なることで容易に区別できる。小笠原諸島からは同属 のイチモンジセセリも記録されているが、後翅の小白斑の形や配置が全 く異なる。

## 【分布の概要】

小笠原諸島

## 【小笠原諸島における生息環境】

主に海岸付近の風衝草地に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島からは戦前の記録のみで、その後発見されていない。母島では各 所で記録されているが、近年の生息状況は安定せず、ほとんど見られな

い年もある。その理由については不明であるが、台風や干ばつなどの影響も考えられる。成虫がしばしば発生地を離れた 場所でも観察されることから、移動性は高いものと考えられる。



苅部治紀ら, 2004; 白水隆, 2006.







## 【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、次の文献に準拠した。 白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社. 336 pp.

## 【関連文献】

対部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本年郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木亙, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川博調査研報 (自然科学), (12): 65-86. 白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社. 336 pp.

高桑正敏・須田真一, 2004. オガサワラシジミの衰亡とその要因. 神奈川博調査研報 (自然), (12): 47-53.